

秋吉台草原ふれあいプロジェクト 報告書



ごあいさつ

秋吉台草原ふれあいプロジェクトは、秋吉台草原の活用と保全を目的に平成20年に発足して以来、「お花畑プロジェクト」「遊歩道の草刈り」「草原復元」「草原学習」「追加の山焼き」などの活動を行ってきました。

この度、秋吉台草原ふれあいプロジェクトを解散することになり、今まで活動の中で積み重ねた調査データが、農家の方々の草刈り方法や観光で多く利用され、草原性の野草が最も多く生育する遊歩道の整備方法、セイタカアワダチソウ群落の草原復元などに役立つことを願っています。

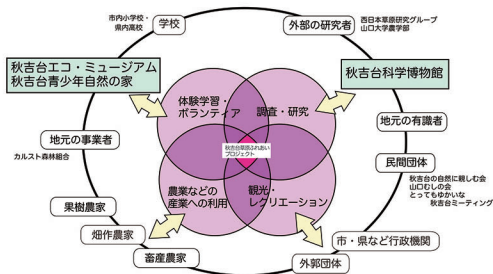
また、高校生や小学生たちの草原学習も草刈り体験などの学習をととして将来の草原保全の担い手として育ててほしいと願っているところです。

これまで活動にご協力をいただいた会員の皆様や多くの一般ボランティアの皆様、事業区すべての植生を調査しデータの収集をしてくれた副代表の荒木陽子氏、草原復元地の土壌調査をしていただいた山口大学の藤間充教授や研究室の方々、この場を借りて皆様に厚くお礼申し上げます。

秋吉台草原ふれあいプロジェクト
代表 松井 茂生

ごあいさつ・目次	2
組織概要	3
プロジェクトの趣旨・プロジェクトの取り組み	4
活動のあゆみ	5
各年度の活動内容	
2008年度	6
2009年度	8
2010年度	10
2011年度	12
2012年度	14
2013年度	16
2014年度	18
2015年度	20
2016年度	22
2017年度	24
2018年度	26
2019年度(秋吉台お花畑プロジェクト)	28
(草原の復元プロジェクト)	29
(小学生の草原学習)	30
(調査結果)	31
(新聞記事)	32
みなさまからの「ひとこと」	34

秋吉台草原ふれあいプロジェクトが協力いただいている機関や団体



設立年月：2008年5月（設立当時の団体名は「秋吉台草原ふれあいチーム」）

会 員 数：37名

設立経緯：美祢市から秋吉台科学博物館への調査委託をきっかけに、環境保全に問題意識をもつ施設・個人が集まり、任意団体をつくった。委託期間終了後もそれぞれの立場や興味に応じた関わり方で、連携しながら、市内の社会教育団体として活動を続けている。

役員

代表：	松井 茂生（秋吉台の自然に親しむ会 事務局長）
副代表：	中屋 弘幸（ほっとビレッジ美東）
	荒木 陽子（秋吉台科学博物館 特別専門員）
事務局：	荒木 陽子（秋吉台科学博物館 特別専門員）
顧問：	前田 時博（元秋吉台エコ・ミュージアム 館長）
監 事：	山本 浩昭（やまぐち里山ネットワーク）
	柴崎 増夫
作業班代長：	松井 茂生（秋吉台の自然に親しむ会 事務局長）
	中島 義人（秋吉台青少年自然の家 所長）
	中屋 弘幸（ほっとビレッジ美東）
調査班代長：	荒木 陽子（秋吉台科学博物館 特別専門員）

プロジェクトの趣旨

近代まで日本各地にみられた草原は、生活に必要な資源を得る場所でした。現在も大規模な草原が広がる秋吉台は、江戸時代初期には田畑の肥料や牛・馬の餌にする草を得るための草刈り場でした。ところが、農業や生活に草を使う機会が減る昭和40年前後からは草を刈る人は減り、草原の面積も縮小の一途をたどりました。

毎年春先に地元住民による山焼きが行われますが、その目的はかつての良質の草を得るというものから、現在では草原の景観を維持するものに変わってきています。しかし、全国で大規模な草原が少なくなっている今、秋吉台の草原は草地環境を好んで生息・生育する動植物の貴重なすみかです。また、火入れや草刈りの技術、草を利用する知恵は、秋吉台地域に住む人々の伝統や文化としても重要です。ふだんの生活の中で草原を利用する機会がほとんどなくなった現在では、技術や知恵の伝承の場を作ることも求められています。

そこで、秋吉台草原ふれあいプロジェクトでは、人の営みと共存してきた多様な生きものがすむ良好な草原を守るため、また地元の技術や知恵を受け継ぐ機会を作るため、さまざまな行事や体験学習、モニタリング調査などを行っています。

私たちが目指す秋吉台のすがた

「こどもたちが遊び、みんなの笑顔が生まれる草原」

「自然の野草がおいしい農産物をはぐくむ草原」

「花咲き虫唱う、豊かな生命にあふれる草原」



プロジェクトの取り組み

■ 秋吉台お花畑プロジェクト (2008～2019年)

初夏に草丈の高い草原を刈って、秋咲きの植物の開花を促しました。刈った草は地元の畑に使ってもらい、資源の循環を図りました。作業の成果は観察会で確認し、オカリナ鑑賞など草原に親しむ企画も行いました。刈った草で育てた農作物を参加者に食べてもらうこともできました。



■ 草原の復元プロジェクト (2008～2019年)

長者ヶ森東側のクリ園だった場所で年2回の草刈りを続けてきました。草を刈って持ち出す区域では外来植物のセイタカアワダチソウよりもネガサヤスキ、チガヤなどの草原性植物が多くなりました。土壌の化学的性質も草原性植物の生育に有利な方向に変化してきました。



■ 遊歩道にお花畑づくり (2010～2013年)

遊歩道は歩行者の快適さや安全性のために草刈りをしなくてはなりません。従来は9月以降の整備では花が萎みます。初夏に整備して草を盛にすることで秋咲きの植物が顕著に増え、歩行者にも好評でした。7月刈りを3年続けると草丈も抑えられました。



■ 山焼き応援プロジェクト (2008～2019年)

外来植物が多く、山焼きで燃え残る場所で燃え残り整備を行いました。観光スポットである長者ヶ森周辺の景観保全に役立ちました。



年度	活動内容
	団体設立 (5月)
2008	「全国草原シンポジウム '08 in 東伊豆」にて事例報告 (田原) 環境省主催「里なび研修会 in 山口 秋吉台の草原の維持と持続可能な利用を考える」の受入れ
2009	セブン-イレブンみどりの基金による活動助成 「第8回全国草原サミット・シンポジウム (雲北)」にてパネル展示
2010	山口県の秋吉台自然環境体験学習事業に参画 (～2011年度) 現地学習会「秋吉台草原の保全と再生を考える」を開催
2011	おいでませ!山口国体デモンストレーションとしてのスポーツ行事「ウォーク」スタッフへの協力とパネル展示
2012	環境省「野生生物の利活用による地域づくり施行調査」の調査対象となる 「秋吉台の草原 学習のしおり」が完成 「CASE5秋吉台学生環境サミット」にて講演 (荒木) 「第8回人づくり・地域づくりフォーラム in山口」にて事例発表 (荒木)
2013	美祿市制5周年記念式典にて功労者表彰 (未来創造表彰) 環境省松江自然保護官事務所主催「平成25年度大山隠岐国立公園ウスイロヒョウモンドキ情報交換会」にて事例発表 (荒木)
2014	「第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇」にて事例報告 (松井) 「第10回人づくり・地域づくりフォーラム in山口」インタビュー・ダイアログに登壇 (荒木)
2015	山口県環境学習推進センター主催「環境活動団体等交流会」で事例報告 (荒木) 山口県きらめき財団理事長表彰 (県民活動きらめき賞)
2016	神戸市環境局主催「神戸市生物多様性シンポジウム 外来種と向き合う人々-外来種対策の活動事例と課題-」にて事例発表 (荒木)
2017	平成29年度山口県環境保全活動功労団体表彰
2018	山口県「ボランティア・チャレンジ2018」に参加
2019	豊田市矢作川研究所セミナーにて外来種駆除の取り組みについて講演 (荒木) 第19回「山口むしの会」総会にて講演 (荒木)

■ 学校の学習対応 (2010～2019年)

市内の小中学校の草原学習や県内高校生の草刈り体験などを受け入れました。

- ・美祿市立本郷小学校 (秋吉小学校に統合)
- ・美祿市立伊佐小学校
- ・美祿市立赤郷小学校
- ・美祿市立秋吉小学校
- ・美東地区連合小学校
- ・日置農業高校 (大津緑洋高校日置校舎)
- ・萩高校
- ・山口農業高校



■ 外部ボランティアとの連携 (2009～2012年)



三井住友海上火災保険 (株)のお花畑プロジェクトと遊歩道にお花畑づくり



連合山口の火道切りボランティアによる火道の草を使った野菜づくり

■ 地元の行事への協力 (2010～2019年)



美祿秋吉台カルストウォークのボランティアスタッフ



「野火の祭典」(夜の山焼き)のボランティアスタッフ